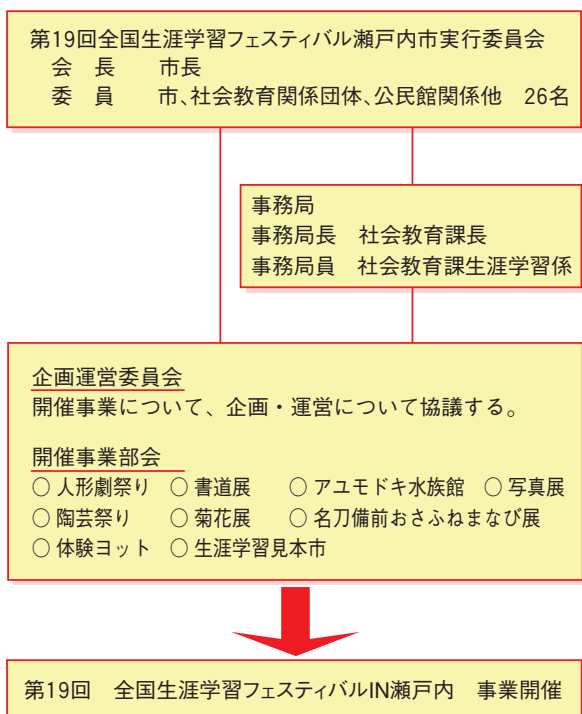


瀬戸内市

1 推進体制（組織図）

市が取り組んできている生涯学習の成果を県内外に発信するとともに、この大会を契機に生涯学習のより一層の推進を図るため、次のような推進体制を組織し、事業を展開しました。



2 基本方針

瀬戸内 シンフォニー 響きあう まなびの輪

フェスティバルの基本理念を共通理解して、その具現化を図るとともに、これまで瀬戸内市が取り組んできた生涯学習の成果を県内外に情報発信していくために、瀬戸内市の特色を生かした事業を展開することを基本方針としました。

また、瀬戸内市民の参画を得ながら、地域の一体性を育むイベントの実現を図ると同時に、官民協働による「人づくり」「地域社会づくり」に貢献できる生涯学習フェスティバルを開催することを共通理解しました。

特に、瀬戸内市発まなびスタイルを全国に発信するフェスティバルとするため、「瀬戸内市独自の歴史や文化・芸能、伝統産業の再発見と継承」「国際交流、環境、人権などの現代的課題への取組紹介」「スポーツレクリエーションの振興による地域の活性化」に重点を置いた、事業の具現化を図りました。

開催に向けて大会スローガン「瀬戸内 シンフォニー

響きあう まなびの輪」を決定し、瀬戸内市におけるまなびの一つひとつが、響きあい、ハーモニーとなり、瀬戸内市ならではのすばらしい交響曲を奏でることができるよう、事業内容を考えていきました。



3 企画運営・事業展開

(1) 企画運営委員会

事業の実施に当たっては、開催趣旨及び基本理念に基づいた主催事業の検討を行ってきました。

「生涯学習とは?」「瀬戸内市らしさとは?」を念頭に置き、企画運営委員会（20名）を組織し、事業内容、運営主体、実施方法等についての協議を重ねました。

(2) 開催事業部会

企画運営委員会で決定した事業内容等を実際の運営に携わる者で組織した部会を開催し詳細を決定していきました。「おもてなしの心」や「参加・交流・体験」の具体的中身等について協議を重ねました。

(3) 瀬戸内市主催事業（8事業）

①備前長船菊花展

内容：お茶会や大正琴の演奏、菊を題材として俳句・川柳などを掲示した菊の展覧会。

②アユモドキ水族館

内容：市内に生息する天然記念物「アユモドキ」とおとして自然環境についての学習会。

③人形劇まつり IN牛窓

内容：市内糸あやつり人形劇団による実演。人形の作成及び操り体験活動。

④キラリ☆名刀備前長船まなび展

内容：特別展の開催や刀工による銘切りや刀にちなんだ体験活動。

⑤秋の陶芸まつり～やきものにふれよう

内容：土ひねりや絵付け体験。陶芸教室で学んだ子どもの作品展示。焚き火でパン作り体験活動。

⑥東備書道展

内容：東備書道展の巡回展。書家大原桂南氏の作品や山野草の同時展示。

⑦瀬戸内市イベント写真展

内容：市内で開催された文化イベント等の写真展。

⑧ヨットレース、体験ヨット・クルーザー試乗会

内容：ヨットレース及びヨット体験教室。



4 広報啓発

生涯学習による人づくり、 地域社会づくりを目指して

生涯学習の一層の普及・促進を目的とし、人がたくさん集まる機会（イベント、公民館講座、研修会、講演会等）を利用し、ティッシュ、リーフレット、ちらしを配布しました。また、生涯学習の重要性について説明すると同時に、事業への参加を呼びかけました。



(1) 瀬戸内市主催事業リーフレットの印刷・配布

- ① 印刷部数 20,000部
- ② 配布先 市内全戸
市内保育園・幼稚園・小学校・中学校
市施設、関係機関

(2) 屋外広告物

- ① 懸垂幕、横断幕
市役所本庁、牛窓支所、長船町公民館他
- ② のぼり旗
市内保・幼・小・中及び市施設、市事業開催地

(3) その他

- ① スタッフジャンパー
- ② 啓発用ティッシュ
- ③ 残日盤の設置
- ④ 青空知事室でのアピール



- ⑤ ホームページの作成
- ⑥ 歓迎用プランターへの花の苗植え
- ⑦ ポスター（全体事業及び事業ごと）
- ⑧ 県広報紙を活用したPR活動
- ⑨ 市広報紙へ特集記事の掲載

5 成果と課題

(1) 成果

期間中（11月2日～6日）、市内7会場で、菊花展、文化祭、博物館での企画展等多方面にわたりフェスティバ



ルを展開でき、生涯学習の広がりを実感することができました。特に、瀬戸内市の歴史・文化資源・学習教材を最大限に生かし、瀬戸内市の魅力を発信することができ、参加者も新たな発見がでたと同時に、活動の成果に触れたり、見たり、体験したりすることで、学習へのきっかけ作りとなりました。

また、これまで生涯学習活動を実践してきた多くの市民、社会教育関係団体、ボランティア団体等の協力を得て運営できたことは、今後のネットワークの構築につながりました。

<参加者の声>

- 市内に住みながら初めて訪れた所があり、参加することにより、瀬戸内市の良さ再発見しました。
- 参加をとおして、新たな出会いがあり、和が広がったことがうれしかったです。

(2) 課題

本事業の取組をどう継続・発展させていくのか、このことは今後の検討事項です。

特に、今まで生涯学習に取り組んできた人が、指導者として中心となって活動することを目標に掲げましたが、今回は十分でなく、その手だてを探っていくことは今後の課題です。

また、全市町村参加によるフェスティバルの開催に伴い、参加者が市民中心となり、瀬戸内市の魅力を県外・市外へ発信することが、やや難しかったように思います。

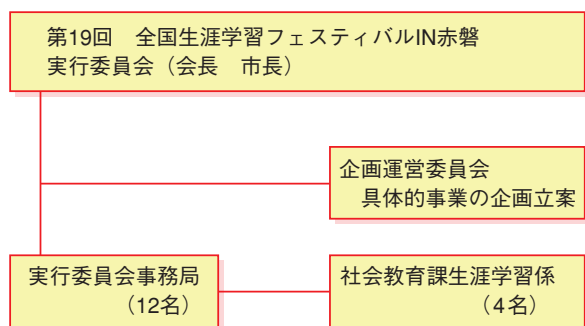
最後に、生涯学習の推進には首長部局の関わりが不可欠です。今回のフェスティバルは、教育委員会社会教育課が事業推進の中心となりましたが、首長部局を巻き込んだ、推進体制を確立していくと同時に、職員の意識改革も今後必要であると強く感じました。

赤磐市

1 推進体制（組織図）

赤磐市は、平成18年4月から教育委員会社会教育課内に事務分掌として「フェスティバル担当」を設け、開催気運の醸成を図っていくと共に、赤磐市の生涯学習への取組を全国に発信していくための準備を進めてきました。平成19年3月19日には、赤磐市長を会長とする“第19回全国生涯学習フェスティバル”IN赤磐実行委員会（委員18名 以下実行委員会という）を設置しました。実行委員会では、「基本計画案」「実施計画案」「大会実施本部組織案」「大会テーマ」などについて話し合いました。

【組織図】



平成19年9月には、11月3日・4日のメイン事業「赤磐市生涯学習フェスティバル」の円滑な運営を図るために、新たに大会実施本部を設立しました。



2 基本方針

第19回全国生涯学習フェスティバルまなびピア岡山2007の基本理念を共通認識して、その具現化を図ると共に、これまで赤磐市が取り組んできた生涯学習の成果を県内外に情報発信していくために、赤磐市の特色を生かした事業を展開します。また、子どもから高齢者まで、広く赤磐市民の参画を得ながら、合併後の地域の一体性を育むイベントの実現を図ります。

基本的構想

- ①だれもが参加・交流・体験でき、学びを身近に感じることができる。
- ②合併による新しいまちの「人づくり」「地域社会づくり」に寄与できる。
- ③国体などで培った「おもてなしの心」を引き継ぎ、官民協働でパートナーシップが発揮できる。

④開催の成果が継承される。

⑤赤磐らしさを県内外に発信する。

以上5点を基本的構想とし「誰もが参加・交流・体験できる場を官民協働で開催することにより、人やもののふれあいの中から、新しい市の人づくり、地域社会づくりに貢献する」ことをねらいとして、「“第19回全国生涯学習フェスティバル”IN赤磐」を平成19年11月2日（金）～6日（火）の5日間、赤磐市山陽ふれあい公園総合体育館を主会場に開催しました。

大会テーマ（公募）

「赤磐の
未来につながる
まなびピア」



3 企画運営・事業展開

(1) 企画運営

事業の実施に当たっては、開催の基本方針に基づいた主催事業の実施を検討すると共に、既存の事業を実施する予定であった関係機関・団体等と調整し、これら主催事業・参加事業・協賛事業と位置づけ、事業内容、運営主体、実施方法等について協議を行いました。

(2) 事業展開

○主催事業（12事業）

メイン事業「赤磐市生涯学習フェスティバル」

日時 11月3日（土）・4日（日）

場所 赤磐市山陽ふれあい公園総合体育館

- ①オープニングセレモニー
- ②吹奏楽の祭典
- ③文化講演会 講師 女優 大山のぶ代
- ④ステージ発表～みんなの学習発表会～
- ⑤オペラ「ワカヒメ」ハイライト～赤磐市特別公演～
- ⑥生涯学習展示発表～2日間一本勝負！～
- ⑦生涯学習見本市

他の主催事業

- ⑧11月2日（金）赤磐市グラウンドゴルフ大会&グラウンドゴルフ場無料開放
- ⑨11月3日（土）夜も生涯学習！スターウォッチングIN竜天文台
- ⑩11月4日（日）赤磐市音楽祭～歌と弦楽アンサンブル～（赤磐市立中央公民館）
- ⑪11月5日（月）学校へ行こう！～市内幼・小・中・一斉学校開放日～
- ⑫11月6日（火）小学校・中学校音楽会

その他、参加事業（2）協賛事業（14）を開催しました。

（3）ボランティアの参加・協力

赤磐市女性の会、赤磐市文化協会、赤磐市PTA連合会、赤磐商工会、赤磐ビデオクラブ、FOS少年団、中学生ボランティア、公募ボランティアなど、100名を超えるボランティアスタッフの参加協力を得ることができました。

4 広報啓発

（1）屋外広告物

- ① 懸垂幕 赤磐市役所に設置
- ② 横断幕 市内4ヶ所に設置。開催1週間前には、会場周辺に移動して開催気運を盛り上げる
- ③ のぼり旗 県から配布されたのぼり旗を市内公共施設、会場周辺に設置

（2）印刷物

- ① ポスター100部を市内公共施設などに配布
- ② 開催案内チラシ（抽選券付）20,000部を全世帯配布
- ③ 赤磐市生涯学習フェスティバルプログラム3,000部、開会式次第1,000部、吹奏楽の祭典プログラム500部、オペラ「ワカヒメ」ハイライト公演プログラム1,000部をイベント時間帯に配布
- ④ 市の広報誌に毎月“第19回全国生涯学習フェスティバル”IN赤磐に係る記事を掲載
- ⑤ 県発行のリーフレット・ガイドブックを公共施設窓口に配置

（3）その他

- ① 着ぐるみ（県から借用）を着用して、市の様々なイベント（花火大会、運動会など）で開催をPR
- ② プレイベント、30日前イベントに参加して、赤磐市のイベントをPR
- ③ 手作りのミニチュアのはり旗、残暦板を作成して開催気運の醸成を図る
- ④ 市ホームページのトップにフェスティバルのバナーを作ると共に定期的にホームページを更新し、情報を発信。
- ⑤ 防災無線を通して開催案内を放送（一部地域を除く）
- ⑥ スタッフジャンパーの作成。
- ⑦ マスコミ関係への定期的な情報発信



5 成果と課題

（1）成果

11月2日（金）～6日（火）までの5日間は好天にも恵まれすべての事業を予定通り開催することができました。全市町村開催、そして、隣接する岡山市がメイン会場であるにもかかわらず、市内外から多くの来場者がありました。5日間全体でのべ1万人の来場者・参加者がありました。特に、メイン事業である「赤磐市生涯学習フェスティバル」（3日・4日）には、4,500人が集まる大盛況の大会となりました。

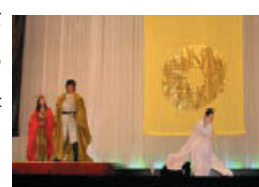
- ① 合併以前から各地区で生涯学習活動を実践してきた方が初めて一堂に会して、文化交流の輪を広げることができました。まさに、「赤磐の未来につながるまなびピア」でした。
- ② ステージ発表、展示発表、体験コーナー、そして、本物の舞台芸術など、短期間に魅力的な事業を展開したので、多くの市民が、これから生涯学習に取り組むきっかけづくりとなりました。
- ③ 市をあげてのイベントとしてこのフェスティバルを位置づけ、職員はもとより、社会教育関係団体、赤磐商工会、市民ボランティア、NPO、企業等多くの協力により事業を実施することができ、予想以上の評価をいただいたことは、赤磐市の生涯学習の広がりを感じました。
- ④ 国体で培った「おもてなしの心」は、運営スタッフボランティアとして携わってくださった方によって継承されました。
- ⑤ フェスティバルの成果は3年後に開催される国民文化祭につながると確信しています。

（2）課題

生涯学習フェスティバルは、メジャーなイベントとして定着はしておらず、また、「生涯学習」という言葉も人により解釈の違いがあり、市民の方からは「何をするのか分かりにくい」という声も聞かれ、開催気運の醸成に苦労しました。

全市町村開催という形で事業が展開されました。赤磐市としての効果は大いにありましたが、県全体へ、そして、全国に赤磐をPRできたかは疑問が残ります。

「来年もこのように赤磐市が一つになれるような生涯学習イベントは開催しないのですか。」という声が市民の方からありました。このフェスティバルで得た官民協働での事業開催のノウハウを今後の赤磐市の生涯学習推進に生かしていくことが大きな課題であると考えます。



和気町

1 推進体制（組織図）

和気町実行委員会は教育長を会長とし、副会長以下、委員12名で設立されました。団体長、行政職員はもとより、和気町独自の教員制度『ふるさと教員』も委員に加え、直接事業に携わる者を委員に委嘱することにより、より実働的な実行委員会としました。

和気町実行委員会 委員名簿

役 職	所 属
会 長	和気町教育委員会 教育長
副会長	和気町文化協会 会長
委 員	和気町商工会 会長
委 員	和気町文化協会 副会長
委 員	副町長
委 員	総務福祉部 部長
委 員	産業振興課 課長
委 員	スポーツ振興課 課長
委 員	歴史民俗資料館 学芸員
委 員	ふるさと教員
委 員	ふるさと教員
委 員	ふるさと教員
委 員	ふるさと教員

2 基本方針

和気町では『元気 やる気 日本一』をスローガンに、教育・文化面では『こころ豊かな人を育てるまちづくり』を目指しています。まなびピアを開催するにあたり、以下の3点を目標としました。

- ①環境、人権、健康づくりなど現代的課題にかかわる学びの場
- ②和気町の歴史、文化を改めて考える学びの場
- ③公民館活動を体験、参加できる学びの場

3 企画運営・事業展開

実施事業

主催事業 4事業

協賛事業 3事業

主催事業

①歴史民俗資料館 開館20周年記念特別展

「和気の文化財」

日時 9月15日（土）～11月11日（日）
9：00～16：30

会場 和気町歴史民俗資料館

内容 和気町の文化財を一堂に集めた特別展示

②菊花展

日時 10月22日（月）～11月9日（金）

会場 和気町中央公民館駐車場

内容 約120点の出展

③文化祭 和気会場

日時 11月3日（土）10：00～15：00

会場 和気町総合福祉センター

和気町中央公民館

和気町立図書館

内容 和気地区の文化祭。舞台発表、展示

④第8回佐伯タンチョウフェスタ

日時 11月4日（日）10：00～14：00

会場 岡山県自然保護センター

内容 野鳥の観察会、タンチョウ観察会、ステージでのタンチョウ鳴きまねコンテスト、丸太きり競争、ふるさと教員によるどんぐり人形とビー玉アクセサリづくり



協賛事業

①和づくりスポーツフェスティバル

日時 10月7日（日）9：00～12：00

会場 和気町体育館

内容 輪投げ、フラフープ、10人11脚、長縄飛び
ドーナツ食い競争、オクラホマミキサー

②文化祭 佐伯会場

日時 11月10日(土)・11日(日)

会場 学び館「サエスタ」

内容 佐伯地区の文化祭。舞台発表、展示、模擬店

③人権尊重のまちづくり推進大会

日時 12月8日(土) 13:00～16:00

会場 和気町総合福祉センター

内容 表彰、講演、中学生による人権劇



4 広報啓発

全町民に「まなびピア」を伝えることを目標に広報活動を行いました。16,000枚のチラシを作成し、町広報誌を利用し町内全戸へ配布しました。また、親子で参加していただけるよう、全園児・児童・生徒へ配布しました。社会教育施設へも配布し、多数の方の目にとまるように努めました。

歴史民俗資料館では新聞社へ取材依頼し、地域版に掲載することで、町内外へ広報できました。ホームページも利用し広報に努めました。他市町の資料館へもポスターを掲示していただきました。

本町の生涯学習の拠点施設である中央公民館、学び館「サエスタ」へまなびピアコーナーを設置しました。



県作成広報紙、啓発用品を利用し、全市町村参加のまなびピアをアピールしました。

5 成果と課題

成果

行政間のもとより、多くの団体からの協力を受け、事業を実施することができました。今回の経験・つながりを生かし生涯学習事業にとどまらず、他部署、団体と連携・協力しながら今後の事業も運営していきたいものです。

事業実施にあたり、3つ目標を掲げました。環境・人権・健康づくりなど現代的課題を学ぶ場を提供することができました。和気町独自の教員制度「ふるさと教員」とも連携し事業ができ、活動の紹介もできました。人権尊重のまちづくり推進大会では講演会、地元の中学生による人権劇で人権と命の大切さを訴えました。

和気町の歴史をたくさん紹介することができました。同時に事務局側も改めて和気町の歴史文化を調査・記録することができました。

日頃、学習している成果を発表することができ、受講生の学習意欲の向上にもつながりました。

町が合併し2年目であり、お互いの文化・学習活動は知らないことばかりでしたが、まなびピアをとおして地域間の交流、情報交換ができました。

課題

今回はチラシ配布が主な広報活動でしたが、新聞掲載・屋外広告物等でより一層広報啓発に努めるとともに展示品を充実させ、魅力ある展示会を開催できるよう努めていきたいと思います。また、生涯学習活動の紹介とともに、受講生の増加につなげるため文化・学習活動を体験できる場を増やしていきたいと思います。各事業とも青年・壮年層の参加が少ないため対策を練る必要があります。

今後とも、人が集い、繋がる学びの場をつくり、まなびピアが契機になり、生涯学習活動が、合併後の人と人との交流・ふれあいの先駆けになるよう事業を展開していきたいと思います。